

2月27日 市立図書館で「移動図書館車贈呈式」 新しい図書館車は「やまゆり号」

図書を通じ、東日本大震災の復興支援活動に取り組む(公社)シャンティ国際ボランティア会は、子どもたちの読書活動に役立ててほしいと、移動図書館車を本市に寄贈しました。



新しい移動図書館車の前にっこり

贈呈式は市立図書館で行われ、移動図書館車を「やまゆり号」と名付けた市内の小中学生7人に本山市長から賞状などが贈られました。

2月27・28日 ローカル・ハック・デイズ 地域の未来を考えよう

市内外の人が集い、遠野の魅力を生かした地域づくりを考える「ローカル・ハック・デイズ」(パラミタ主催)は、遠野みらい創りカレッジを拠点に2日間の日程で開かれました。



たくさんのアイデアが出されました

参加者は、市内を視察した後、ホップやどぶろくといった遠野の特産品などを活用したビジネスモデルについて意見交換しました。

3月2日 遠野緑峰高の卒業式 ホップ和紙の卒業証書で門出を祝う

遠野緑峰高(佐々木重善校長)の卒業式で、同校が開発したホップ和紙を使用した卒業証書が卒業生53人に授与されました。昨年の10月から全校生徒で制作。式では、心のこもった卒業証書が、卒業生一人一人に手渡されました。



手作りの卒業証書が卒業生に授与されました

卒業生は、証書をしっかりと受け止め、仲間や恩師、家族に感謝しました。

3月4日 宮守町のやまゆりの里で誕生会 青笹町の櫻井理平さん100歳

櫻井理平さんの誕生会が同所で行われました。職員や家族が祝福すると、理平さんは「ありがとうございます」と感謝しました。理平さんは、大正5年に青笹町で生まれ、26歳でリヨさん(故人)と結婚。農業に励みながら、3男5女を育て上げました。現在は、16人のひ孫に恵まれ元気に過ごしています。



感謝の言葉を述べる理平さん

3月6・9日 高校再編を考えるシンポジウム開催！ 県教委へ要望書を提出 2校の存続へ向け、市民一致団結！

県教育委員会の県立高校再編計画案で、遠野高と遠野緑峰高の統合案が示されたことを受け、計画案に反対する「高校再編を考える市民会議」は3月6日に設立されました。同会議は両校の同窓会やPTA、商工会など、市内22団体の関係者で構成。同日の設立会議では同会の会長に、遠野緑峰高同窓会長の藤井洋治氏を選任しました。また、同日に開かれた市民シンポジウムには、市民200人が出席。両校存続を求める決議文を採択しました。9日には、藤井会長や本山市長らが要望書を県教育委員会に提出。要望書には「市民とより良いあり方を議論すること」が盛り込まれました。藤井会長は「市民の思いは両校の存続です。十分な時間を確保した上で検討していただきたい」と訴えました。

市民とより良いあり方を議論すること」が盛り込まれました。藤井会長は「市民の思いは両校の存続です。十分な時間を確保した上で検討していただきたい」と訴えました。



1



2

1_6日のシンポジウムでは、高校再編の問題点を議論 2_9日、高橋嘉行県教育長へ要望する藤井会長ら



1



2



3



5



4



6

1_黙とうを捧げる仮設住宅の入居者ら 2_ピースキャンドル 3_「後方支援の集い」で市婦人消防協隊長の松田富子さんが誓いの言葉を述べた 4_基調講演を行う織原氏 5_官民連携の重要性を訴える発表者 6_締結を交わす長友貴樹調布市長と本山市長 7_文化復興について遠野文化研究センター所長の赤坂憲雄さんが講演

東 日本大震災から5年！。被災地に追悼の意を捧げ、震災の教訓を未来につなぐための催しが、市内各地で行われました。3月11日には、「追悼鎮魂の灯」が仮設住宅「希望の郷絆」で行われ、入居者や地域住民ら100人は、犠牲者の冥福と一日も早い復興を祈りました。出席者は、午後2時46分のサイレンに合わせ黙とう。夜には、入居者らが作ったピースキャンドルに灯をともし、鎮魂の祈りを捧げました。12日には、本市が拠点となって展開された沿岸被災地後方支援活動を振り返り、教訓を今後に生かすための「東日本大震災5年後方支援の集い」が、ありあ遠野で開催されました。陸上自衛隊や自治体関係者、市民など、後方支援活動に携

わった380人が出席。集いでは、東京学芸大教育学部物理化学分野専門研究員の織原義明氏による基調講演が行われたほか、市内の自治会やボランティア団体の代表者らが、震災から現在に至るまでの活動事例を発表。織原氏は「遠野市の後方支援活動の成果と課題をしっかりと検証し、全国に発信していくことが未来につながる」と総括しました。また、マンガ家の水木しげる氏(故人)との縁で交流があることから、東京都調布市と本市は、災害時相互協定を締結。本山市長は「震災の教訓を未来につなげ、水平連携による防災体制の構築をさらに進める」と誓いました。このほか、18日には「文化復興プロジェクト」の最終報告会が行われるなど、市内各地で多くの催しが開かれました。